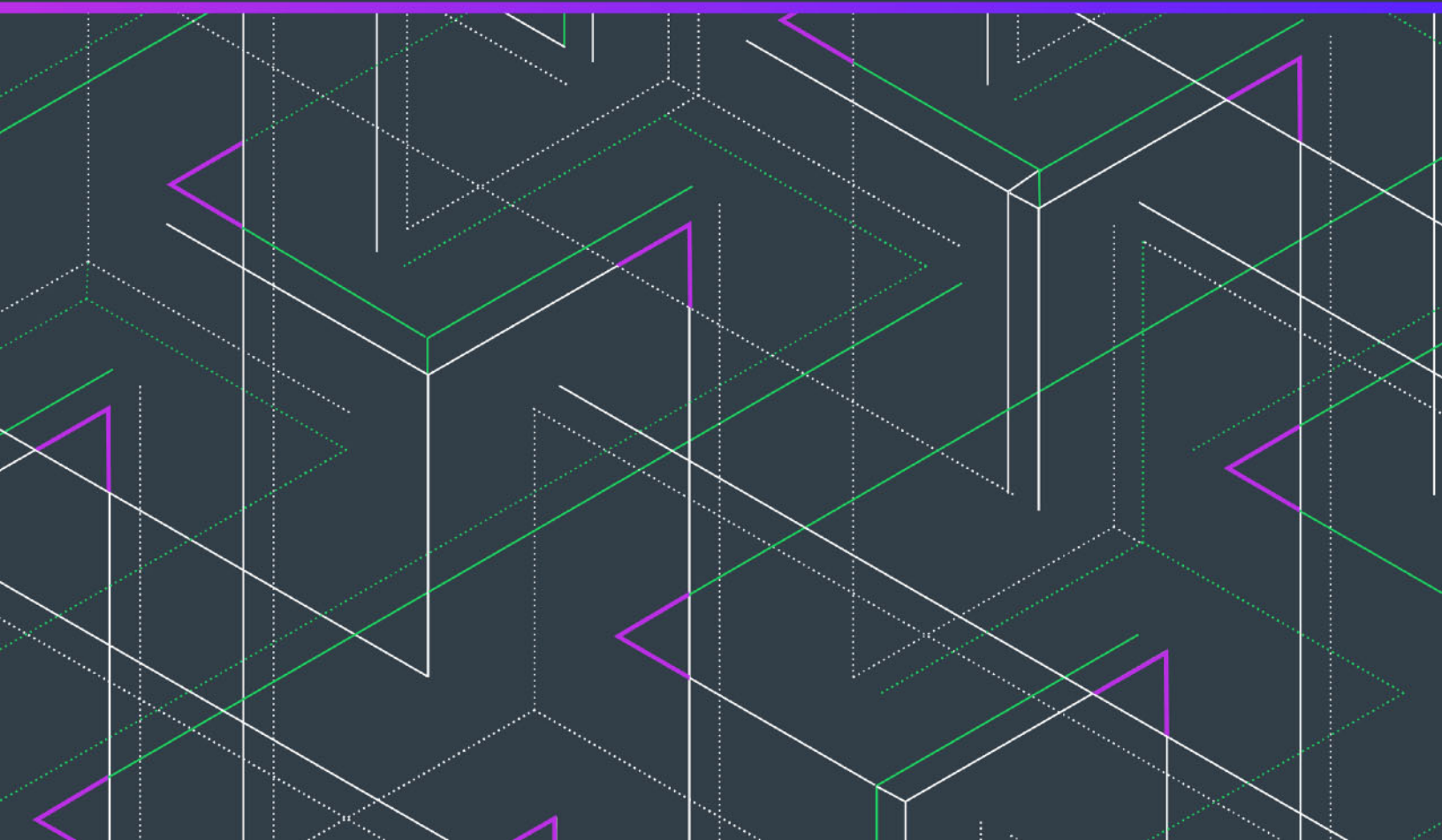


Revera製品ダウンロード & ライセンス ガイド - InstallShield 2021 以降 (サブ スクリプション)



法的情報

文書名: Revenera 製品 & ライセンス ガイド – InstallShield 2021 以降 (サブスクリプション)

部品番号: ISP-2700-LG00

製品のリリース日: 2021 年 9 月

著作権情報

Copyright © 2021 Flexera Software

この出版物には、Flexera Software およびそのライセンサーによって所有されている機密情報、創造的な製作物が含まれています。本出版物の一部または全部を、Flexera Software からの事前の書面による明示的許可なしに、使用、複製、出版、配布、表示、改変または転載することはいかなる形態または手段を問わず厳重に禁止いたします。Flexera Software によって書面で明示されている場合を除き、この出版物の所有は、禁反言、黙示などによっても、Flexera Software が所有するいかなる知的財産権の下、ライセンスまたは権利を一切付与するものではありません。

本テクノロジーおよびそれに関する情報のすべての複製は Flexera Software より許可されている場合に限り、著作権および所有権に関する通知を完全な形で表示しなければなりません。

知的財産

Flexera Software が所有する商標および特許の一覧は、<https://www.revenera.com/legal/intellectual-property.html> を参照してください。フレクセラ・ソフトウェア製品、製品ドキュメント、およびマーケティング資料で言及されているその他すべてのブランドおよび製品名は、各社の商標または登録商標です。

(米国内向け) 制限付権利に関する表示

本ソフトウェアは商業用コンピュータ ソフトウェアです。本ソフトウェアのユーザーまたはライセンス許可対象者が米国政府の代理、部署、その他の関連機関の場合、ソフトウェアまたは技術データおよびマニュアルを含むすべての関連文書の使用、複写、複製、開示、変更、公開、または譲渡に関して、ライセンス契約または本契約の条項ならびに民生機関については連邦調達規則第 12.212 条または軍事機関については国防連邦調達規則補遺第 227.7202 条による制限が適用されます。本ソフトウェアは完全に自費で開発されたものです。その他一切の使用は禁止されています。

目次

InstallShield 2021 以降 (サブスクリプション) のダウンロードおよびライセンスについて	5
ライセンスのオプション	5
ノードロック型ライセンスのライフ サイクルについての概要	7
InstallShield、再配布可能ファイル、アドオン、サービスパック、その他のインストールをダウンロードする	9
InstallShieldおよび Standalone Build ライセンスの概要	10
ノードロック ライセンスを使って InstallShield をアクティベートする	11
Standalone Build のノードロック ライセンスのインストールと構成	11
InstallShield および Standalone Build の同時接続ライセンス環境を設定する	12
同時接続ライセンスについての背景情報	13
同時接続ライセンス サーバーを設定する	14
FlexNet License Server のシステム要件	15
FlexNet License Server ソフトウェアの取得	15
ライセンス サーバー上で FlexNet License Server ソフトウェアを設定、アクティベーション コードを取得、およびア クティベートを行う	16
ライセンスを異なるライセンス サーバーに移動する	23
ユーザーのマシンをライセンス サーバーに接続して、または InstallShield ライセンスのチェックイン/チェックアウトを 行う	24
ライセンス サーバーから InstallShield ライセンスを借用する	24
Standalone Build をビルド マシンにインストールし、ライセンス サーバーに接続してライセンスのチェックイン/チェッ クアウトを行う	26
同時接続ライセンスの Cloud License Server (CLS) を指定する	27
Cloud License Server (CLS) の詳細を取得する	27
Cloud License Server (CLS) インスタンス ID を指定する	30
Standalone Build が搭載されているマシンを Cloud License Server (CLS) に接続して、Standalone Build ライセンスのチェッ クイン/チェックアウトを行う	31
InstallShield のアンインストールと再インストール	33
ライセンスをアクティベーション サーバーのアカウントへ返還する	33
Standalone Build ライセンスに関する問題のトラブルシューティング	34
FlexNet License Server 上における License Server Manager (lmadmin) の使用	36

Imadmin の起動36
ライセンス ファイルを Imadmin にインポートする38
ベンダー デーモンの管理39
FlexNet License Server のシステム情報を参照する41

InstallShield 2021 以降 (サブスクリプション) のダウンロードおよびライセンスについて

このドキュメントでは、InstallShield 2021 以降で使用できる異なるライセンス モデルについての背景情報が説明されています。また、様々なタスクの手順も記述されています:

- InstallShield のインストール、再配布可能ファイル、アドオンその他を取得する
- InstallShield および Standalone Build のライセンスングを設定する



メモ InstallShield 2021 以降を使用していない、またはこのバージョンの InstallShield と共に出荷される Standalone Build を使用していないが、これらの製品の以前のバージョン (InstallShield 2020 以前) を使っている場合は、次のサイトに掲載されているバージョンごとの手順を参照してください:

[ダウンロードおよびライセンスングについて: Reverera 製品へのアクセス](#)

ライセンスのオプション

InstallShield 2021 では 2 つの異なるライセンス オプションによるサブスクリプション ライセンスが提供されています:

- **ノードロック型サブスクリプション ライセンス** – このモデルでは、サブスクリプション有効期間中、製品ライセンスは特定のユーザーとマシンに固定されています。このモデルは従来型のオプションで、最も頻繁に購入されています。

ノードロック ライセンスを使用している場合、マシンに保存されている個人のライセンスは、ユーザーの責任で管理してください。複数のユーザー間でこの種類のライセンスを共有することは、InstallShield EULA に違反します。

- **ライセンス サーバーを使った同時接続サブスクリプション ライセンス** – このモデルでは、同時接続ライセンスのサブスクリプション有効期間中、複数のユーザー間で InstallShield ライセンスを共有または浮動ライセンスとして使用することができます。このモデルは、浮動ライセンスとも呼ばれます。同時接続ライセンスは、従来型のノードロック ライセンスに比べて、より高い柔軟性と費用対効果を提供します。InstallShield 同時接続サブスクリプション ライセンスは、**FlexNet License Server**、または **Cloud License Server (CLS)** を使って構成することができます。このサブスクリプション ライセンス モデルは、InstallShield Premier Edition および Standalone Build でのみ使用できます。

お客様の組織が InstallShield の同時接続ライセンスをご購入済みで、お客様がマシン上に InstallShield をインストールするとき **Cloud License Server (CLS) インスタンス ID を指定**する時、Reverera から受け取ったホストサーバー ID を入力します。Cloud License Server (CLS) インスタンスは、Reverera FlexNet Cloud Licensing Service でホストされ、InstallShield が使用するライセンス権利を保管します。この後、InstallShield を自分のマシンで起動するたびに、クラウド ライセンスサーバーが呼び出され、必要なライセンスが使用可能であることがクエリ(CLS)されます。ライセンスが使用可能な場合、InstallShield へのアクセスが許可されます。同時接続ライセンスでは、製品のアクティベーションは必要ありません。

または、組織で InstallShield の同時接続 FlexNet License Server が購入されている場合、InstallShield をマシンにインストールするとき使用する**ライセンス サーバーの識別**が必要になります。この後、InstallShield を自分のマシンで起動するたびに、サーバーが呼び出され、必要なライセンスが使用可能であることがクエリされます。ライセンスが使用可能な場合、InstallShield へのアクセスが許可されます。同時接続ライセンスでは、製品のアクティベーションは必要ありません。

異なるライセンス モデルに関する情報と、ニーズに一番適したライセンスの選び方については、InstallShield セールス担当者にお問い合わせください。

InstallShield のノードロック ライセンスと、Standalone Build のノードロック ライセンスは異なります。次の表で、主な違いを説明します。

テーブル 1・InstallShield と Standalone Build のノードロック ライセンスの違い

InstallShield のノードロック ライセンス	Standalone Build のノードロック ライセンス
InstallShield のノードロック ライセンスのロックを解除するには、製品をアクティベートするためのアクティベーション コードが必要です。アクティベーションが行われなかった場合、評価期間が終了した時点で製品が使用できなくなります。	Standalone Build のノードロック ライセンスのロックを解除するには、Reverera が生成するライセンス ファイルをマシンに追加する必要があります。
InstallShield をインストール後、アクティベーションを行わなくても、限られた日数の間 InstallShield を評価できます。評価期間中は、ほとんどの機能を使用できます。	Standalone Build で評価モードは提供されておらず、ライセンス ファイルなしで実行することはできません。
ほとんどの場合、InstallShield のアクティベーションプロセス (ノードロック ライセンスを解除する) にはインターネット接続が必要です。製品がインストールされたマシンをインターネットに接続できない場合は、電子メール アクティベーションが必要です。	Standalone Build のノードロック ライセンスは、インターネットに接続されていないロックダウン環境のビルド マシン上での使用を目的に設計されています。Standalone Build のライセンスを取得するとき、Standalone Build を実行するビルド マシンを使用することも、別のマシンを使用することともできます (別のマシンを使用する場合、ライセンス ファイルの取得プロセスで、ビルド マシンのホスト ID を入力しなくてはなりません。)

異なるライセンス モデルに関する情報と、ニーズに一番適したオプションの選び方については、Reverera のセールス担当者、または最寄のリセラーにお問い合わせください。

ノードロック型ライセンスのライフ サイクルについての概要

ノードロック型サブスクリプション ライセンス モデルでは、マシン上でサブスクリプション期間中に InstallShield をアクティベートする必要があります。また、サブスクリプション期間に基づいて定期的に更新を行う必要があります。ほとんどの場合、InstallShield サブスクリプションが予定通り自動的に更新されます。アクティベーションと更新によって、エンドユーザー使用許諾契約書 (InstallShield EULA) で許可されている数を超えるマシン上で InstallShield がアクティベートされていないかが検証されます。ノードロック型のライセンスを使用している場合、マシンに保存されている個人のライセンスは、ユーザーの責任で管理してください。

以下は、製品のアクティベーションおよび更新、そしてライセンスで発生する可能性があるイベントの説明です。

製品アクティベーション

InstallShield が初回で起動されたとき、アクティベーション ウィザードが開きます。ウィザードによって、InstallShield をアクティベートする手順が案内されます。製品のアクティベーション コードを入力すると、InstallShield ライセンスが認証され、製品のロックが解除されます。ウィザードによって、まず、オンライン アクティベーションが試みられます。オンライン アクティベーションに失敗した場合、ウィザードはオフライン アクティベーション (別のマシンから Web ページにアクセスして行うアクティベーション) を案内します。

InstallShield を初回で起動したときにアクティベートしなかった場合、アクティベーションが必要になるまで、制限された日数の間に使用が可能です。アクティベーション ウィザードでは、トライアル期間の残り日数が表示されます。

ある理由で、アクティベーションが上手くいかない場合があります。失敗の最も一般的な理由は、アクティベーション コードが既に他のマシン上にある InstallShield のアクティベートに使用されている場合です。このような場合、アクティベーション ウィザードはライセンスを保護するために、ユーザーが EULA で許可されている数を超えるマシンで InstallShield をアクティベートできないようにします。

製品の更新

製品がアクティベートされた後、サブスクリプションの期間に基づいて定期的な更新が必要です。更新処理は、そのアクティベート済みの製品が InstallShield EULA にしたがってインストールされているか、またアクティベーションの実行が許可されている数を超えていないかを確認するプロセスです。

InstallShield は、サブスクリプション有効期限が切れる 1 ヶ月前から警告メッセージを表示します。また、InstallShield は InstallShield の[バージョン情報] ダイアログには、InstallShield を継続して使用するために必要なサブスクリプションの更新についてのリマインダーが表示されます。

通常、InstallShield サブスクリプションの更新手続きがバックオフィスで予定通りおこなわれている場合、ユーザーによる処理なしで自動的に更新されます。現在のサブスクリプションの期限日に、アクティベーション ウィザードがサイレントで、アクティベーション コードを求める更新要求をアクティベーション サーバーに送信します (ユーザー インターフェイスには表示されません)。サーバーは、更新の要求を受け取ると、その要求を検証します。更新の要求が有効な場合、サーバーはアクティベーション ウィザードに状態を自動的に通知し、ウィザードによる InstallShield の更新を可能にします。

更新が必要な時に、その自動実行が不可能な場合 (たとえば、インターネット接続が使用不可能など)、InstallShield が起動されたときにアクティベーション ウィザードが表示されます。その時点で、InstallShield の更新は、アクティベーションに使用されたウィザードを使って実行することができます。ウィザードは、まずオンライン更新を試みます。オンラインによる更新が失敗した場合、ウィザードによってオフライン手続きが利用可能になります。更新のオフライン アクティベーション プロセスは、アクティベーションのプロセスと同じです。

時として、アクティベーションが失敗する場合があります。失敗の最も一般的な理由は、アクティベーションコードが既に他のマシン上にある InstallShield のアクティベートに使用されている場合です。このような場合、アクティベーション ウィザードはライセンスを保護するために、ユーザーが EULA で許可されている数を超えるマシンで InstallShield をアクティベートできないようにします。

ライセンス ファイルの更新

InstallShield Standalone Build には、ノードロック アクティベーションのライセンス ファイルが必要です。Standalone Build ライセンス ファイルは、Flexera / Revenera 製品 & ライセンス センター を使って管理することができます。製品 & ライセンス センターを使って、インストールのダウンロード、ライセンス ファイルの生成、およびライセンスを別のマシンに移動するときにライセンスを返還することができます。

製品の更新中、新しいサブスクリプション期間を反映させるために、製品 & ライセンス センター から InstallShield Standalone Build のライセンスを生成する必要があります。

ライセンスの移動

新しいマシンに取り替える場合、使用中のライセンスを古いマシンから新しいマシンに移すことができます。

使用中のライセンスを新しいマシンに移す場合、まずそのライセンスをアクティベーション サーバーのアカウントへ返還する必要があります。このプロセスは、非アクティブ化と呼ばれることもあります。ライセンスを返還すると、そのライセンスが再度使用可能になり、別のマシンで、自分のアクティベーション コードを使ってアクティベートできるようになります。ライセンスを返還する方法については、「[ライセンスをアクティベーションサーバーのアカウントへ返還する](#)」をご覧ください。

一旦ライセンスが返還されると、同じアクティベーション コードを使って、新しいマシン上で製品をアクティベートすることができます。



重要・ライセンスを移動できる回数には制限があります。InstallShield は 1 年間に 4 回アクティベーション サーバーにライセンスを返還することが可能です。1 年間にライセンスを 4 回以上移動させたい場合は、InstallShield セールスまたはサポート担当者にご相談ください。

ライセンスを完全に移譲する

場合により、使用中のライセンスを、組織内の別のユーザーまたは別のマシンに譲渡する必要性が発生することがあります。たとえば、職務が変わり、別のユーザーが InstallShield でインストールを作成することになった場合、状況によって、使用中のライセンスをその担当者に譲渡する必要性が発生することがあります。使用中のライセンスを新しいマシンに譲渡する場合、まずそのライセンスをアクティベーション サーバーのアカウントへ返還する必要があります。ライセンスを返還すると、そのライセンスが再度使用可能になり、新しいユーザーが別のマシンで、今使用中のアクティベーション コードを使ってアクティベートできるようになります。新しいユーザーは、インストールが完了した後、InstallShield を使用中のマシンでアクティベートする必要があります。

ライセンスが他のユーザーから自分に完全に移譲された場合、InstallShield のセールスまたはサポート担当者に連絡し、ライセンスの更新登録情報を知らせてください。登録情報の更新は、適切なサービス、製品のアップデートやプロモーションに関する通知を受け取るために必要です。



重要・ライセンスを完全に移譲できる回数には制限があります。InstallShield は 1 年間に 4 回アクティベーションサーバーにライセンスを返還することが可能です。1 年間にライセンスを 4 回以上ライセンスを完全移譲させたい場合は、InstallShield セールスまたはサポート担当者にご相談ください。

InstallShield、再配布可能ファイル、アドオン、サービスパック、その他のインストールをダウンロードする

次のインストールは、フレクセラ/Reverera 製品 & ライセンス センターからダウンロード可能です:

- InstallShield
- 再配布可能ファイル (たとえば、InstallShield 前提条件および InstallScript オブジェクト)
- Standalone Build、および InstallShield MSI ツールなどのアドオン (使用可能な場合)
- FlexNet License Server ソフトウェア (同時接続ライセンスを購入した場合で、組織のライセンス サーバーを設定する必要がある場合)
- InstallShield サービス パック (使用可能な場合)



メモ InstallShield のご購入時に製品 & ライセンス センターにお客様の組織専用のアカウントが作成され、そのアカウントにご購入者のユーザー アカウントが追加されると共に、ご購入者宛てにサインイン情報が記載されたウェルカム メッセージが電子メールで送信されます。お客様が製品のご購入担当者である場合、ウェルカム メッセージに記載されているサインイン情報を使って製品 & ライセンス センターにサインインできます。お客様がご購入担当者ではなく、まだユーザー アカウントが追加されていない場合は、[\[新しいアカウントに参加\] ページ](#) (<https://flexerasoftware.flexnetoperations.com/control/inst/registeraccount> にアクセスして、組織のアカウント ID (アカウント ID は、オーダー確認のための電子メール メッセージに記載されています) を入力し、アクセス要求を行ってください。



タスク

インストールをダウンロードする方法:

1. **製品 & ライセンス センター** (<https://flexerasoftware.flexnetoperations.com/>) にサインインする。
2. 左側のナビゲーション内で、**[エンタイトルメント]** の下にある **[製品リスト]** をクリックします。
[製品リスト] ページには、お客様のアカウントで使用できる製品ラインのすべてが表示されます。複数の製品へのアクセスがない場合は、**[製品リスト]** リンクをクリックすると、**[製品情報]** ページが直接開きます。
3. **[製品リスト]** ページに複数の製品が表示された場合は、**InstallShield** リンクをクリックします。**[製品情報]** ページが開きます。
4. **[製品とファイルのダウンロード]** 列で、ダウンロードするバージョンの InstallShield リンクをクリックします。**[製品ダウンロード]** ページが開きます。
5. 適切なダウンロード ボタンをクリックします。

インストールのダウンロードが完了した後、製品を使用するマシン上でインストールを実行します。

InstallShield および Standalone Build ライセンスの概要

次の表は、ご購入頂いたライセンスの種類別に、その設定方法の概要を説明します。

テーブル 2・ライセンスの種類

ライセンスの種類	ライセンスの種類の説明	手順
InstallShield のノードロック ライセンス	この種類のライセンスは、特定のユーザーとマシンに関連付けられています。ノードロック ライセンスの場合、製品をアクティベートするためにアクティベーションコードが必要です。このモデルは従来型のオプションです。	手順については、「 ノードロック ライセンスを使って InstallShield をアクティベートする 」を参照してください。
Standalone Build のノードロック ライセンス	この種類のライセンスは、特定のユーザーとマシンに関連付けられています。Standalone Build のノードロック ライセンスの場合、Standalone Build をインストールするマシン用に Revenera が生成するライセンス ファイルが必要です。	ノードロック ライセンスを設定する手順は、「 Standalone Build のノードロック ライセンスのインストールと構成 」を参照してください。
InstallShield および Standalone Build の同時接続ライセンス	<p>この種類のライセンスを使用すると、同時に最大数のユーザー間でライセンスを浮動または共有することができます。各ユーザーのマシン上にインストールされた製品を、組織内で設定されたライセンス サーバーに接続する必要があります。この種類のライセンスは、フレクセラ/Revenera 製品 & ライセンス センターを通して取得できるアクティベーションコードを使って、ライセンス サーバー上でライセンスのアクティベートが必要です。</p> <p>ライセンス サーバー ソフトウェアを使って、ユーザーは InstallShield のライセンスを、指定する日数の間ライセンス サーバーから借用することができます。借用したライセンスを使って、ライセンス サーバーが配置されている同じネットワークから接続が解除された状態で、製品を使用することができます。</p>	<p>ライセンス サーバーを設定する手順は、「InstallShield および Standalone Build の同時接続ライセンス環境を設定する」を参照してください。</p> <p>製品がインストールされたマシンをライセンス サーバーに接続する手順は、以下を参照してください:</p> <ul style="list-style-type: none">• ユーザーのマシンをライセンスサーバーに接続して、または InstallShield ライセンスのチェックイン/チェックアウトを行う• Standalone Build をビルドマシンにインストールし、ライセンスサーバーに接続してライセンスのチェックイン/チェックアウトを行う <p>InstallShield のライセンスを借用する手順については、「ライセンスサーバーから InstallShield ライセンスを借用する」を参照してください。</p>

ノードロック ライセンスを使って InstallShield をアクティベートする

ノードロック型ライセンス モデルでは、マシン上で InstallShield をアクティベートする必要があります。アクティベーションでは、製品が InstallShield エンドユーザー使用許諾契約書 (EULA) で許可されている数を超えるマシン上でアクティベートされていないかが検証されます。ノードロック ライセンスを使用している場合、マシンに保存されている個人のライセンスは、ユーザーの責任で管理してください。



タスク *InstallShield をアクティベートする方法:*

アクティベートする製品を起動します。アクティベーション ウィザードを開きます。このウィザードを使って、アクティベーション コードを入力して製品をアクティベートします。

InstallShield のノードロック ライセンスをご購入の場合の製品アクティベート方法については、InstallShield と共にインストールされる ヘルプ ライブラリの「InstallShield の製品アクティベート」を参照してください。

Standalone Build のノードロック ライセンスのインストールと構成

Standalone Build のノードロック ライセンスをご購入の上、Standalone Build インストールを取得すると、Standalone Build をインストールできます。Standalone Build のノードロック ライセンスを構成するためには、製品 & ライセンス センターからライセンス ファイル (.lic) を取得しなくてはなりません。以下に、Standalone Build のインストール方法、らなびにノードロック ライセンスの取得および構成方法を説明します。



タスク *Standalone Build をインストールしてノードロック ライセンス ファイル (.lic) を取得するには、以下の手順に従います:*

1. Standalone Build インストールを起動します。
2. [ライセンスの種類] ダイアログで [ノードロック ライセンス] オプションを選択します。
3. [ホスト ID] ダイアログで、[製品 & ライセンス センターからライセンス ファイルを取得] ボタンをクリックします。

このボタンをクリックすると、製品 & ライセンス センターへのリンクが含まれた Web ページが開きます。このリンクをクリックして、製品 & ライセンス センターにサインインします。



ヒント・ Standalone Build をインストールするマシンがインターネットに接続されていない場合は、インターネットに接続されているマシンから **製品 & ライセンス センター** (<https://flexerasoftware.flexnetoperations.com/>) にサインインしてください。

4. 製品 & ライセンス センターで、Standalone Build をインストールする特定のマシン用のライセンス ファイルを取得します。
 - a. 左側のナビゲーション内で、[エンタイトルメント] の下にある [製品リスト] をクリックします。

[製品リスト] ページには、お客様のアカウントで使用できる製品ラインのすべてが表示されます。複数の製品へのアクセスがない場合は、[製品リスト] リンクをクリックすると、[製品情報] ページが直接開きます。

- b. [製品リスト] ページに複数の製品が表示された場合は、[InstallShield] リンクをクリックします。[製品情報] ページが開きます。
 - c. インストールならびに構成を行う製品の [ライセンス] リンクをクリックします。[ライセンス情報] ページが開きます。このページには、製品の使用中および未使用のライセンスについての詳細が表示されます。
 - d. リストから未使用のライセンスを見つけて、そのライセンス属する [製品に有効なライセンス] オプションを選択します。
 - e. ページの下にある [生成] ボタンをクリックします。[ライセンスの生成] ページが開きます。
 - f. そのライセンスの [ノード ホスト ID] ボックスに、Standalone Build をインストールする特定のマシン固有の Host ID を入力します。Host ID は、Standalone Build インストール中に [Host ID] ダイアログに表示されます。
 - g. [生成] ボタンをクリックします。[ライセンスの表示] ページが開きます。
 - h. [すべて保存] ボタンをクリックします。製品 & ライセンス センターに、ライセンス ファイルをダウンロードする場所を指定できるダイアログ ボックスが表示されます。
 - i. Standalone Build をインストールするマシンがアクセスできる場所を指定します。製品 & ライセンス センターによって、指定された場所に .lic ファイル (複数可) がダウンロードされます。このファイル名は *HostID.lic* で、*HostID* 部分には、.lic ファイルを取得したときに指定した Host ID が入ります。管理し易くするために、このファイル名を変更することもできます。
5. Standalone Build インストールで、[Host ID] ダイアログに戻って、[次へ] ボタンをクリックします。[ファイルの参照] ダイアログが開きます。
 6. [ライセンス ファイル (.lic)] ボックスに、マシンで使用する .lic ファイルへのパスを入力するか、[参照] ボタンをクリックして、そのファイルに移動します。
 7. インストールの残りのダイアログを完了します。

インストールによって、ビルド マシン上に Standalone Build がインストールされます。インストール中に、Standalone Build Program Files フォルダの System フォルダに、指定された .lic ファイルがコピーされ、License.lic に名前が変更されます。ライセンス ファイルの場所は、次の通りです:

Standalone Build Program Files フォルダ → %System%License.lic

InstallShield および Standalone Build の同時接続ライセンス環境を設定する

お客様の組織が InstallShield または Standalone Build の同時接続ライセンスをご購入された場合、お客様の環境または Cloud License Server (CLS) で設定されている FlexNet License Server によって、同時に実行可能な製品のインスタンス数が管理されます。これらの製品の 1 つを起動する各ユーザーは、ライセンス サーバーとの接続を確立して、必要ときにライセンスをチェックインまたはチェックアウトする必要があります。



メモ 同時接続ライセンスの Cloud License Server (CLS) を指定する方法については、「[同時接続ライセンスの Cloud License Server \(CLS\) を指定する](#)」を参照してください。

同時接続ライセンスについての背景情報

組織内のユーザーによって同時接続ライセンスを使用する製品が起動されるたびに行われるプロセスを、以下に説明します。

1. ユーザーが製品を起動する。
2. ユーザーのマシン上の FlexEnabled コードが、FlexNet License Server との接続を確立して、ライセンスを要求する。
3. FlexNet License Server が、ライセンスが使用可能であるかどうかをチェックする。ライセンスが使用可能な場合、FlexNet License Server がそれをチェックアウトします。また、サーバーがユーザーのマシンにメッセージを送信します。このメッセージによって、製品の実行が許可されます。
4. ユーザーのマシン上の FlexEnabled コードがメッセージを受信して製品を開く。

ユーザーが製品を終了したとき、ユーザーのマシン上の FlexEnabled コードが FlexNet License Server にメッセージを送信して、ライセンスがチェックインされます。これによって、別のマシン上でこのライセンスが使用できるようになります。



ヒント ユーザーが FlexNet License Server と同じネットワークから接続を解除したい場合、ユーザーは日数を指定して製品のライセンスを借用することができます。借用中のライセンスの有効期限が切れると、同じマシン上で別のライセンスがチェックアウトされるまで、そのマシン上で製品が起動できなくなります。

詳細については、「[ライセンス サーバーから InstallShield ライセンスを借用する](#)」を参照してください。

FlexNet License Server のコンポーネント

FlexNet License Server は、以下のコンポーネントで構成されます。

テーブル 3 • FlexNet License Server のコンポーネント

Component	説明
FlexEnabled 製品	FlexEnabled 製品とは、FlexNet Publisher Licensing Toolkit を使ってそのライセンスモデルを実装する製品です。InstallShield、AdminStudio、および InstallAnywhere はすべて FlexEnabled 製品です。これらの FlexEnabled 製品は、FlexNet License Server と通信して、必要に応じてライセンスを要求します。

テーブル 3 • FlexNet License Server のコンポーネント (cont.)

Component	説明
License Server Manager	<p>FlexNet License Server 上のライセンス サーバー マネージャーは、FlexEnabled 製品との最初の通信を処理して、接続をベンダー デーモンに渡します。ライセンス サーバー マネージャーは、ライセンス権利を提供するためのベンダー デーモンを開始および管理します。</p> <p>ライセンス サーバー マネージャーの 1 つのバージョンに lmadmin があります。これは、最新バージョンのライセンス サーバー マネージャーです。このバージョンは、グラフィック ユーザー インターフェイスを使用します。</p>
ベンダー デーモン	<p>ベンダー デーモンは、FlexEnabled 製品を開発したベンダーと関連付けられたファイルです。FlexNet FlexNet License Server を使って InstallShield、AdminStudio、InstallAnywhere、および他のベンダーが開発した FlexEnabled 製品のライセンスを管理する場合、FlexNet License Server は、Reverera のベンダー デーモン 1 つと、その他の各ベンダーにつき 1 つのベンダー デーモンを取り扱います。</p> <p>ベンダー デーモンは、FlexEnabled 製品と FlexNet License Server 間の通信を処理して、チェックアウトされているライセンスの数、借用中のライセンスの数とそれぞれの有効期限、およびその使用者を追跡管理します。</p>

FlexNet License Server のコンポーネントに関して、以下の点にご注意ください:

- **TCP/IP を通じて通信** - InstallShield、AdminStudio、および InstallAnywhere は、TCP/IP ネットワーク通信を介してベンダー デーモンとの通信を行います。製品およびデーモンのプロセスは、ネットワーク上の別々のマシン上で実行することができ、ワイドエリア ネットワークのサイズは問いません。
- **マシン非依存型の通信** - Reverera 製品と FlexNet License Server 間におけるトラフィックのフォーマットはマシンに依存しないため、異種ネットワークを使用できます。このため、FlexNet License Server マシンと Reverera 製品を実行するマシンには、異なるハードウェア プラットフォームを使用することができます。
- **ベンダーデーモン強制終了のシナリオ** - ベンダーデーモンが何らかの理由で強制終了する場合、すべてのユーザーは、そのライセンスを失います (アプリケーションが突然停止することはありません)。ユーザーは通常、ライセンス サーバー マネージャーがベンダー デーモンを再開したときに自動的にライセンスを再取得しますが、ベンダー デーモンの使用不可能な状態が長引くと、製品が終了する場合があります。

同時接続ライセンス サーバーを設定する

同時接続ライセンス環境を設定して InstallShield または Standalone Build の同時接続ライセンスを管理する場合、FlexNet License Server ソフトウェアをダウンロードおよびインストールして、アクティベーション コードを取得する必要があります。このセクションでは、その手順とサーバーのシステム要件を説明します。

- **FlexNet License Server のシステム要件**
- **FlexNet License Server ソフトウェアの取得**
- **ライセンス サーバー上で FlexNet License Server ソフトウェアを設定、アクティベーション コードを取得、およびアクティベートを行う**



ヒント InstallShield がインストールされているマシンをライセンス サーバーに接続する方法については、「[ユーザーのマシンをライセンス サーバーに接続して、または InstallShield ライセンスのチェックイン/チェックアウトを行う](#)」を参照してください。

Standalone Build がインストールされているマシンをライセンス サーバーに接続する方法については、「[Standalone Build をビルド マシンにインストールし、ライセンス サーバーに接続してライセンスのチェックイン/チェックアウトを行う](#)」を参照してください。

FlexNet License Server のシステム要件

FlexNet License Server として使用するマシンを選ぶとき、以下の点にご注意ください:

- **マシンの選択** – FlexNet License Serverマシンには、ネットワーク上の任意のマシンを使用できます。一般的に、ライセンス サーバー システムのコンポーネントは、ネットワーク上の中央マシンに配置されます。

FlexNet License Serverマシンで、他のアプリケーションを実行することが可能です。FlexNet License Serverのみを実行する専用マシンの必要はありません。ただし、トラフィック量やライセンス数が多い環境で、より安定したシステムを構築するには、専用マシンであることが理想的です。

FlexNet License Serverマシンは、ユーザーがいつでもアクセスできるように、常にオンの状態である必要はありません。

Triad サーバー クラスタはサポートされていません。

- **サポートされているオペレーティング システム** – FlexNet License Server マシンには、Windows ベースのマシンが必要です。サポートされている Windows バージョンは、Windows 7、Windows Server 2008 R2、Windows Server 2012 R2、Windows 8、Windows 8.1、および Windows 10 です。

FlexNet License Server は他のオペレーティング システムをサポートしますが、InstallShield 2021 以降およびその追加オンの同時接続 ライセンスには、前述の Windows の特定バージョンが必要です。

- **ネットワーク** – FlexNet License Server マシンは、TCP/IP ポートを使ってReverera 製品と通信が可能でなくてはなりません。有効な番号は、使用されていないポート番号 0 から 64000 までです。デフォルトのポート範囲は 27000 から 27009 です。この通信を許可するために、ファイアウォールの設定を調整する必要があるかもしれません。
- **必要なソフトウェア** – FlexNet License Server インストールの一部としてインストールされるライセンス サーバー マネージャーは、Web ベースのアプリケーション、lmadmin です。コマンドライン ツールである lmgrd はサポートされていません。

新しいバージョンの FlexNet License Server (InstallShield 2021 以降と共に出荷) をインストールする前に、FlexNet License Server の以前のバージョンをアンインストールしてください。

lmadmin は、Web ブラウザー Microsoft Internet Explorer 11 および Microsoft Edge で使用できます。

FlexNet License Server ソフトウェアの取得

FlexNet License Server ソフトウェアは、同時接続ライセンスを保有するユーザーからのライセンス チェックアウトおよびチェックイン要求を管理します。FlexNet License Server のインストールは、同時接続ライセンシング ソフトウェアをインストールする単一の圧縮された実行可能ファイルです。このインストールを、ライセンス管理

用のマシンで実行します。InstallShield および Standalone Build などのアドオンの同時接続ライセンスをご購入の場合のみ、インストールが必要です。ソフトウェアは、InstallShield 2021 以降とそのアドオン、および InstallShield の以前のバージョンのライセンスを管理するためのサポートを含みます。

Windows ベース システム用の FlexNet License Server インストールは、InstallShield インストール、サービス パックその他のダウンロード ファイルと共に、製品 & ライセンス センターからダウンロードすることができます。ダウンロード ファイルを取得する方法については、「[InstallShield、再配布可能ファイル、アドオン、サービスパック、その他のインストールをダウンロードする](#)」を参照してください。

ライセンス サーバー上で FlexNet License Server ソフトウェアを設定、アクティベーション コードを取得、およびアクティベートを行う

FlexNet License Server ソフトウェアを取得したら、ライセンス サーバーとして使用するマシン上にこのソフトウェアをインストールできます。InstallShield の同時接続ライセンスを管理する FlexNet License Server を構成するためには、製品 & ライセンス センターからアクティベーション コードを取得しなくてはなりません。

FlexNet License Server ソフトウェアには、ライセンス サーバー マネージャー (ladmin) が含まれています。ライセンス サーバー マネージャーでは、Web ベースのユーザー インターフェイスを使って、以下のタスクを行うことができます:

- サーバー構成、およびほとんどの管理機能を実行する。
- ユーザーの追加と削除、およびユーザーの権限を構成する。

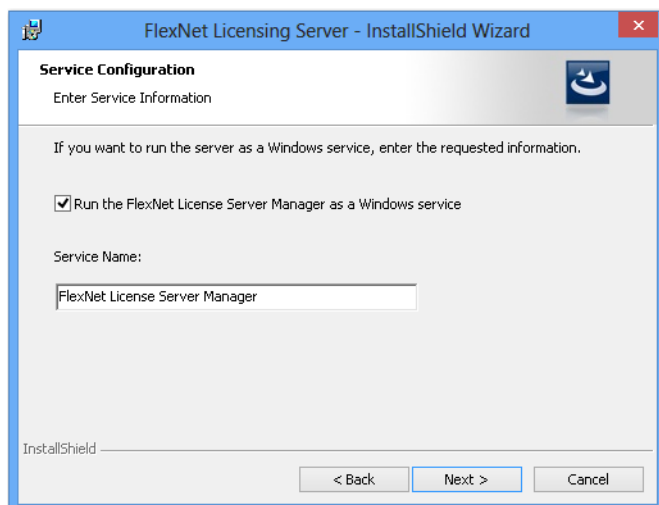
次に、同時接続ライセンスを使用する場合の FlexNet License Server ソフトウェアのインストールおよび構成方法について説明します。



タスク

FlexNet License Server をインストールおよびアクティベーション コードを取得するには、以下の手順に従います:

1. FlexNet License Server インストールを起動して、[Service Configuration] ダイアログに進みます。



2. FlexNet License Server を Windows サービスとして実行する場合、チェックボックスを選択してから、サービスに使用する名前を入力します。

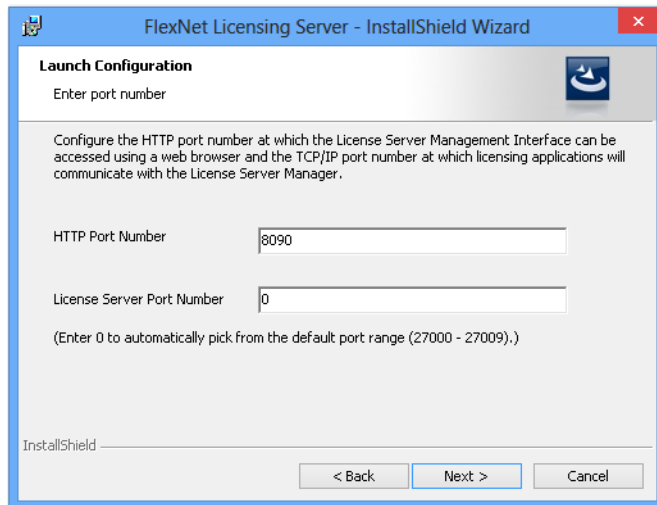


重要・高レベルな稼働状態を保つため、FlexNet License Server Manager を Windows サービスとして実行することが推奨されます。Windows サービスとして実行されている場合、FlexNet License Server マシンが再起動する必要があるときに、サービスも再開されます。このため、FlexNet License Server を再び使用可能な状態にするために、ライセンスをチェックアウトしようとするユーザーまたはマシンが、手動で操作を行う必要がありません。

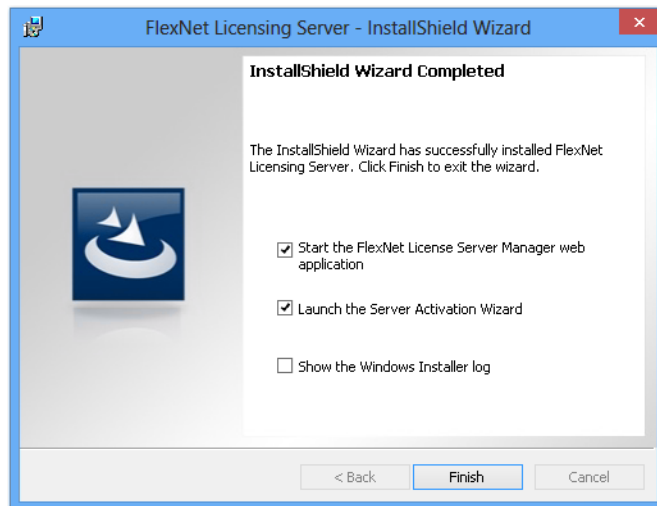
3. [起動構成] ダイアログで、[HTTP ポート番号] および [ライセンス サーバーのポート番号] ボックスに適切なポート番号を入力します。

HTTP ポート番号は、どのライセンスがどのマシンによって使用中であるかを監視するための Web サーバーをホストするために使用されます。

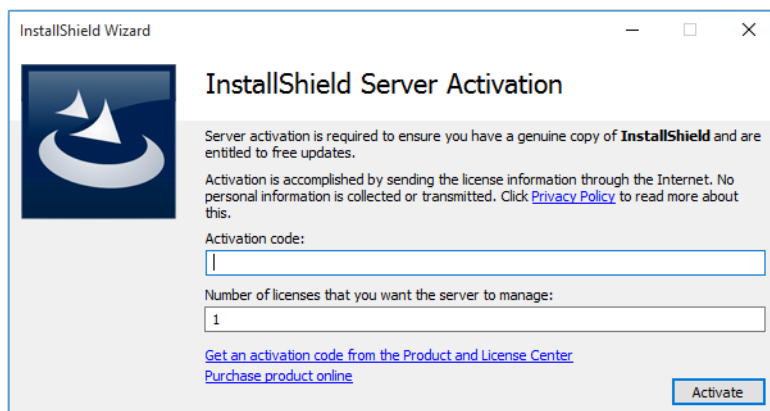
ライセンス サーバー ポート番号は、FlexNet License Server 上のベンダー デーモンと FlexNet Enabled 製品 (InstallShield など) との間の通信で使用されます。



4. インストールの残りのダイアログを完了します。最後のダイアログには、いくつかのチェック ボックスがあります。



5. [サーバー アクティベーション ウィザードを起動] チェック ボックスを選択してから (オプションで [FlexNet License Server Manager Web アプリケーションを開始] を選択)、[完了] ボタンをクリックします。
サーバー アクティベーション ウィザード が開きます。



ヒント 後でサーバー アクティベーション ウィザードにアクセスするには、[スタート] メニューから [FlexNet Server アクティベーション ウィザード] ショートカットをクリックします。

6. アクティベーション コード (XXXX-XXXX-XXXX-XXXX - 4 文字の 4 セットの形式) がいない場合、FlexNet License Server がインストールされている特定のマシン用に、これを取得できます。
 - a. [Get an activation code from the Product and license Center (製品 & ライセンス センターからアクティベーション コードを取得する)] リンクをクリックします。

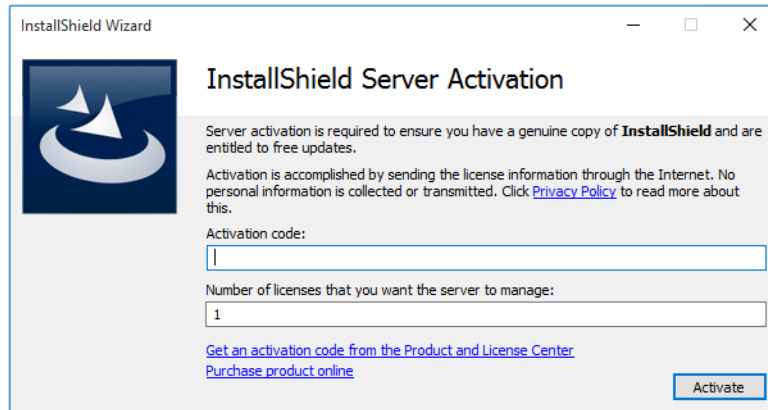
このリンクをクリックすると、製品 & ライセンス センターの Web サイトが開きます。製品 & ライセンス センターにサインインします。



ヒント FlexNet License Server ソフトウェアをインストールするマシンがインターネットに接続されていない場合は、インターネットに接続されているマシンから製品 & ライセンス センター (<https://flexerasoftware.flexnetoperations.com/>) にサインインしてください。

- b. 左側のナビゲーション内で、[エンタイトルメント] の下にある [製品リスト] をクリックします。
[製品リスト] ページには、お客様のアカウントで使用できる製品ラインのすべてが表示されます。複数の製品へのアクセスがない場合は、[製品リスト] リンクをクリックすると、[製品情報] ページが直接開きます。
- c. [製品リスト] ページに複数の製品が表示された場合は、[InstallShield] リンクをクリックします。[製品情報] ページが開きます。
- d. インストールならびに構成を行う製品の [ライセンス] リンクをクリックします。[ライセンス情報] ページが開きます。このページには、製品のライセンスについての詳細が表示されます。
- e. ライセンスをアクティベートするときに必要な情報を取得します: このページでアクティベーション コードを見つけて、少なくとも 1 本以上のライセンスが使用可能であることを確認してください。そのアクティベーション コードで使用可能なライセンスの数を書き留めておきます。ライセンス サーバーでライセンスをアクティベートするときに、アクティベーション コードを使用します。

7. サーバー アクティベーション ウィザードに戻って、次の情報を入力します:
 - a. [Activation Code (アクティベーション コード)] ボックスに、製品をアクティベートするためのアクティベーション コードを入力します。アクティベーション コードは、XXXX-XXXX-XXXX-XXXX (4 文字の 4 セット) の形式です。
 - b. [Number of licenses that you want the server to manage (サーバーで管理するライセンスの数)] ボックスに、適切なライセンスの数を入力します。ここに入力できる最大数は、製品 & ライセンス センターで指定された有効なライセンスの数です。

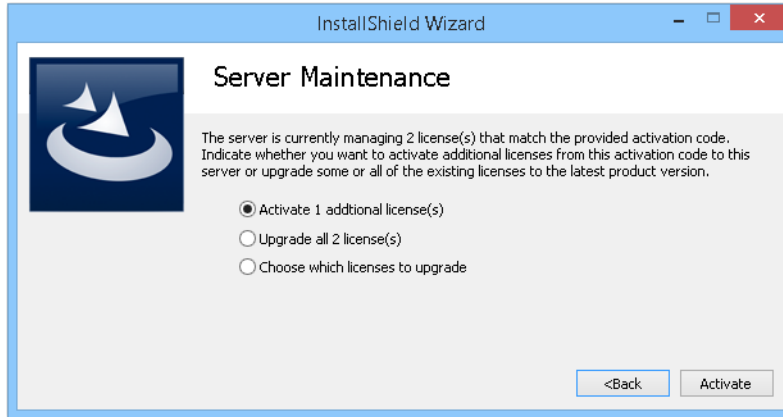


8. [Activate (アクティベート)] ボタンをクリックします。次のいずれかの処理が行われます:
 - a. ウィザードがアクティベーション要求を製品 & ライセンス センターに転送します。製品 & ライセンス センターがアクティベーション要求を受け取ると、その要求が検証されます。要求が有効である場合、製品 & ライセンス センターはアクティベーション応答をサーバー上でライセンスをアクティベートするサーバー アクティベーション ウィザードに転送します。
 - b. ライセンス サーバーがインターネットに接続できない場合、またはオンラインで検証を実行するのが困難な場合、サーバー アクティベーション ウィザードで電子メールを使ったオフライン アクティベーション オプションを使用できます。詳細については、「[オフライン アクティベーションを実行する](#)」を参照してください。

- c. 入力されたアクティベーション コードの同時接続ライセンスがサーバーで既に管理中である場合、サーバー アクティベーション ウィザードでは、サーバー上で追加ライセンスをアクティベートするか、サーバーが現在管理中の 1 つ以上の既存ライセンスをアップグレードするかを指定することができます。

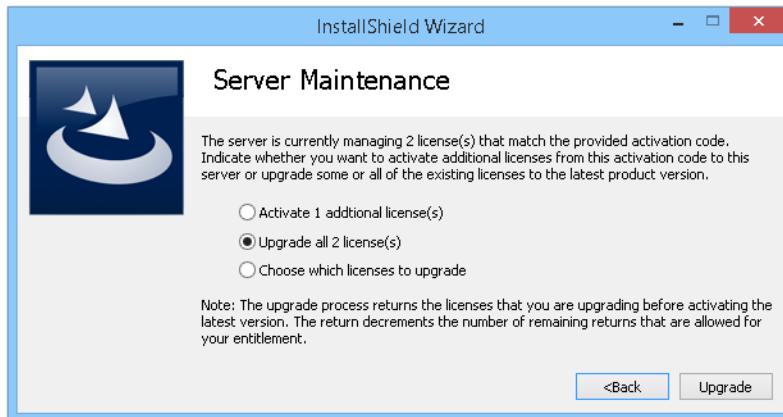
サーバーで既に同時接続ライセンスを管理中の場合、ウィザードでサーバー メンテナンス ウィザード ページが表示されます。以下のいずれかを実行します。

- サーバー上で追加のライセンスをアクティベートする場合、**[Activate X additional license(s) (X 追加ライセンスのアクティベート)]** オプションを選択してから、**[Activate (アクティベート)]** ボタンをクリックします。



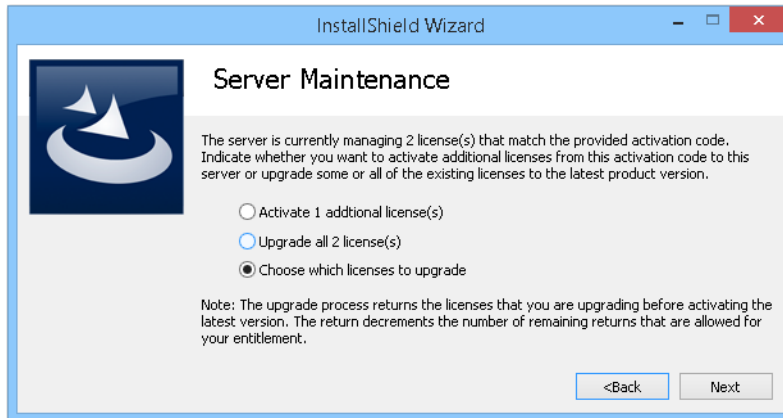
ウィザードがアクティベーション要求を製品 & ライセンス センターに転送します。

- 前のウィザード ページで指定済みの数のライセンスをアップグレードする場合、**[Upgrade all X license(s) (X すべてのライセンスをアップグレード)]** オプションを選択してから、**[Upgrade (アップグレード)]** ボタンをクリックします。

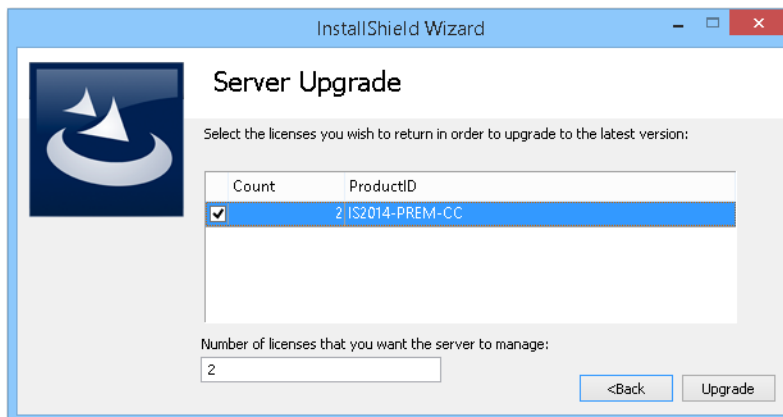


ウィザードがアクティベーション要求を製品 & ライセンス センターに転送します。アップグレード プロセスは、最新バージョンをアクティベートする前にアップグレード中のライセンスを戻します。これによって、エンタイトルメントで許可されている残りの返還可能な数が減少します。

- 特定のライセンスのみをアップグレードする場合、[Choose which licenses to upgrade (アップグレードするライセンスの選択)] オプションを選択してから、[Next (次へ)] ボタンをクリックします。



Server Upgrade (サーバー アップグレード) ウィザード ページが開きます。アップグレードするライセンスに該当するチェック ボックスを選択して、使用するライセンスの数を入力してから、[Upgrade (アップグレード)] ボタンをクリックします。



ウィザードがアクティベーション要求を製品 & ライセンス センターに転送します。アップグレードプロセスは、最新バージョンをアクティベートする前にアップグレード中のライセンスを戻します。これによって、エンタイトルメントで許可されている残りの返還可能な数が減少します。

FlexNet License Server をインストールした後にチェックする

サーバーが実行中であることをテストするには、インストールを実行するマシン上で Web ブラウザーを開いてから、次の URL に移動します (*PortNumber* には、適切なポート番号を挿入します):

`http://localhost:PortNumber/`

また、別のマシンからは、次の URL を使ってこのポータルにアクセスすることができます。このサイトにアクセスするためには、使用中のマシンのファイアウォール設定の変更が必要な場合もあります。

`http://MachineName:PortNumber/`

MachineName は、FlexNet License Server ソフトウェアが搭載されたマシンの名前です。*PortNumber* は、インストール中に入力したポート番号です。デフォルトのポート番号は 8090 です。



重要・多くの組織では、同時接続ライセンスを管理するために FlexNet License Server を設定する担当者と、InstallShield またはその関連ツールをインストールならびに使用するユーザーとが異なります。その場合、ユーザーに InstallShield またはその他のツールをインストールしてから FlexNet License Server に接続するときに必要な以下の情報を通知してください:

- FlexNet License Server ソフトウェアがインストールされているサーバーの名前または IP アドレス
- [起動構成] ダイアログに入力したライセンス サーバー ポート番号。(ほとんどの場合、この値は空白です。この値を空白のままにする場合、InstallShield またはその他のツールのユーザーに、をインストールする際にポート番号設定を空白のままに残すように指示してください。)

オフライン アクティベーションを実行する

FlexNet License Server マシンがインターネットに接続されていない場合、別のマシンを使ってセルフサービス Web ページ (<http://www.installshield.com/offlineactivation>) からオフライン アクティベーションを行うことができます。



タスク Web ページを使ったオフライン アクティベーションの手順:

1. サーバー上で同時接続ライセンスを**アクティベート**する。完了できない場合、サーバー アクティベーション ウィザードで **[Offline Activation (オフライン アクティベーション)]** ダイアログが表示されます。[Request text (要求テキスト)] ボックスに、要求テキストが含まれています。要求テキストは、`<?xml version` で始まり、`</Request>` で終わっています。
2. 要求テキストをインターネットに接続されている別のマシンからアップロード可能なテキストファイルとして保存するには、**[Save (保存)]** ボタンをクリックします。テキストは .request ファイルとして保存することができます。
3. フレクセラ/Reverera製品 & ライセンス センターのオフライン アクティベーション Web ページ (<http://www.installshield.com/offlineactivation>) にアクセスして、指示に従って保存済みの .request ファイルを参照します。

オフライン アクティベーション Web ページのボタンをクリックしてアクティベーション要求を送信し、アクティベーション応答ファイル (.xml) を取得すると、Web ページで .xml ファイルの保存場所を指定するためのプロンプトが表示されます。これを保存して、アクティベーションを開始したマシンで使用可能な状態にします。

4. 応答ファイル (.xml) を取得してアクティベーション プロセスを完了する準備ができたなら **[スタート]** メニューから FlexNet サーバー アクティベーション ウィザードを起動します。サーバー アクティベーション ウィザードが開きます。
5. **[Response text (応答テキスト)]** ボックスがある **[Offline Activation (オフライン アクティベーション)]** ダイアログに進みます。
6. **[Load (ロード)]** ボタンをクリックします。**[開く]** ダイアログが開きます。
7. アクティベーション応答ファイル (.xml) を参照して、**[Open (開く)]** をクリックします。**[Open (開く)]** ダイアログが閉じて、ウィザードが **[Response text (応答テキスト)]** ボックスに応答テキストを書き込みます。応答テキストは、`<?xml version` で始まり、`</Response>` で終わっています。



メモ・ステップ 7 の代わりに、応答テキストをクリップボードにコピーしてから [Paste (貼り付け)] ボタンを使って、[Response text (応答テキスト)] ボックスにクリップボードのコンテンツを貼り付けることもできます。

8. [Activate (アクティベート)] ボタンをクリックします。

サーバー アクティベーション ウィザードがサーバー ライセンスをアクティベートします。



ヒント・上記の手続きは、ライセンスをオフラインで返還するときにも実行されます。

ライセンスを異なるライセンス サーバーに移動する

新しいライセンス サーバーに取り替える場合、使用中のライセンスを古いマシンから新しいマシンに移すことができます。

使用中のライセンスを新しいマシンに移す場合、まずそのライセンスをフレクセラ・/Reverera 製品 & ライセンスセンターのアカウントへ返還する必要があります。ライセンスを返還すると、別のサーバーでそれらを再びアクティベートすることができます。

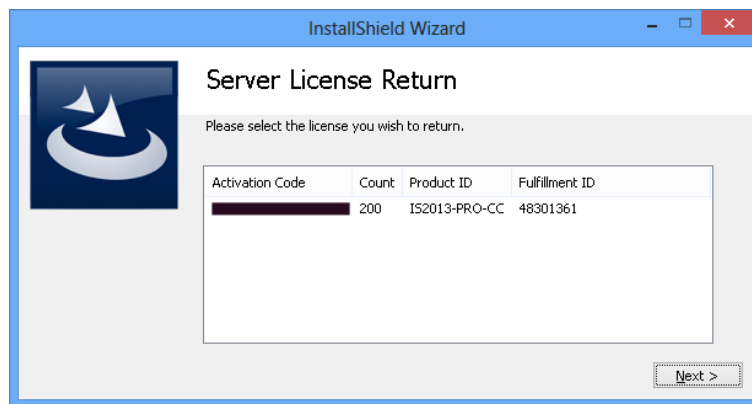


重要・ライセンスを返還して、別のマシンでアクティベートできる回数には制限がありますので注意してください。最大数は 1 年に 2 回までです。



タスク 製品 & ライセンス センターでアカウントにライセンスを返還するには、以下の手順に従います:

1. [スタート] メニューで [FlexNet Server ライセンス返還] ショートカットをクリックします。Server License Return Wizard (サーバー ライセンス返還ウィザード) が開きます。



2. 返還するライセンスに対応するアクティベーション コードを選択してから、[Next (次へ)] ボタンをクリックします。

ライセンスの返還可能な制限回数に至っていない場合は、ライセンスが返還されます。

ユーザーのマシンをライセンス サーバーに接続して、または InstallShield ライセンスのチェックイン/チェックアウトを行う

お客様の組織で InstallShield の同時接続ライセンスをご購入された場合、まず組織内で FlexNet License Server を設定する必要があります。FlexNet License Server を設定した後、InstallShield をインストールするマシン上で FlexNet License Server を識別します。



タスク

InstallShield の FlexNet License Server を識別するには、以下の手順に従います:

1. InstallShield を起動します。製品が起動する前に、アクティベーション ウィザードが開きます。
2. [製品がライセンス情報をライセンス サーバーから取得できるように構成する] オプションを選択してから、[次へ] ボタンをクリックします。製品が [ライセンス サーバーの指定] ダイアログを表示します。
3. [サーバー] ボックスで、ライセンス サーバーの IP アドレスを入力するか、[参照] ボタンをクリックして、サーバーを参照します。
4. お客様の環境で構成されている FlexNet License Server がカスタム ポート番号を使用している場合は、[ポート] ボックスにそのポート番号を入力します。多くの場合、ポート番号は空白のままです。
5. [テスト接続] ハイパーリンクをクリックします。

ウィザードがマシンをライセンス サーバーに接続して、マシンが製品のライセンスをチェックアウトおよびチェックインできるかどうかを検証します。



メモ InstallShield 2009 または InstallShield 2008 用の同時接続ライセンスをチェックアウトしたマシン上で、InstallShield の新しい同時接続ライセンスを使用できるようにするには、以下のアップデートをダウンロードしてクライアント マシンにインストールする必要があります:

InstallShield 2008 および InstallShield 2009 同時接続ライセンス アップデート

(<http://saturn.installshield.com/product/is/2010/domestic/licenseupdate/licenseupdater.exe>)

ライセンス サーバーから InstallShield ライセンスを借用する

FlexNet License Server と同じネットワークからマシンの接続を解除する必要がある場合、日数を指定して InstallShield のライセンスを借用することができます。ライセンスを借用すると、ネットワークから接続解除された状態で製品を使用することができます。

借用したライセンスの使用期限が切れると、ライセンス サーバーに再接続して、ライセンスのチェックアウトが可能になるまで製品を使用することができなくなります。

InstallShield 2021 以降と出荷される FlexNet License Server ソフトウェアは、InstallShield の以前のバージョンの同時接続ライセンスを管理できますが、ライセンスの借用をサポートするのは、InstallShield 2013 バージョンからです。つまり、InstallShield 2013 以降のバージョンでライセンスの借用が可能です。

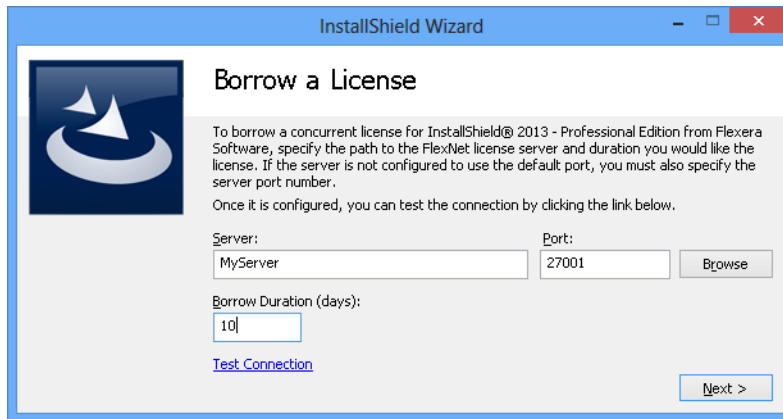
ライセンスの借用

ライセンスを借用するには、次のステップを実行します:



タスク **ライセンスを借用するには、以下の手順に従います:**

1. FlexNet License Server と同じネットワークに接続している状態で、InstallShield を起動します。
2. [ヘルプ] メニューで、[バージョン情報] をクリックします。[バージョン情報] ダイアログ ボックスが開きます。
3. [ライセンスの借用] ボタンをクリックします。Borrow a License (ライセンスの借用) ウィザードが開きます。



4. サーバー名、ライセンス サーバー ポート番号、およびライセンスを借用する日数を指定します。最大日数は、60 日です。次に [Next (次へ)] ボタンをクリックします。

ライセンスがローカルで借用されるため、指定された日数の間、ライセンス サーバーと同じネットワークに接続せずに製品を使用することができます。

ライセンスを返還中

借用したライセンスの有効期限が切れる前に FlexNet License Server に返還したい場合、ライセンスの返還が可能です。



タスク **有効期限が切れる前にライセンスを返還するには、以下の手順に従います:**

1. FlexNet License Server と同じネットワークに接続している状態で、InstallShield を起動します。
2. [ヘルプ] メニューで、[バージョン情報] をクリックします。[バージョン情報] ダイアログ ボックスが開きます。
3. [ライセンスの返還] ボタンをクリックします。

ライセンスは、FlexNet License Server に返還され、再度チェックアウトまたは別のユーザーによるチェックアウトが可能となります。

Standalone Build をビルド マシンにインストールし、ライセンス サーバーに接続してライセンスのチェックイン/チェックアウトを行う

Standalone Build の同時接続ライセンスをご購入の上、Standalone Build インストールを取得すると、1 台以上のマシンに Standalone Build をインストールできます。Standalone Build の同時接続ライセンスを構成するには、Standalone Build をマシンにインストールするときに使用する FlexNet License Server を識別する必要があります。この後、Standalone Build をマシンで起動するたびに、サーバーで必要なライセンスが使用可能であることが確認されます。ライセンスが使用可能な場合、そのマシンによる Standalone Build へのアクセスが許可されます。



タスク

Standalone Build をインストールして、組織の同時接続ライセンスを管理している FlexNet License Server を識別するには、以下の手順に従います:

1. Standalone Build インストールを起動します。
2. [ライセンスの種類] ダイアログで [同時接続ライセンス] オプションを選択します。
3. [ライセンス サーバーおよびポート] ダイアログで、ライセンス サーバーの名前または IP アドレスを入力します。お客様の環境で構成されている FlexNet License Server がカスタム ポート番号を使用している場合は、そのポート番号を入力します。多くの場合、ポート番号は空白のままです。設定への入力完了したら、[テスト接続] ボタン をクリックして、ビルド マシンが Standalone Build のライセンスをチェックアウトおよびチェックインできるかどうかを検証します。
4. インストールの残りのダイアログを完了します。

インストールによって、ビルド マシン上に Standalone Build がインストールされます。インストールは、Server.ini ファイルという名前のファイルも作成します。このファイルは、Standalone Build Program Files フォルダの System フォルダにインストールされます:

Standalone Build Program Files フォルダ→System¥server.ini

Server.ini ファイルには、次の行が含まれています:

```
[FlexNet Publisher Server]
```

```
Server=Port@ServerName
```

上の例で、Port はカスタム ポート番号が使用される場合のポート番号です。多くの場合、ポート番号は省略されます。ServerName は、FlexNet License Server ソフトウェアが搭載されたマシンの名前です。



メモ Standalone Build をビルド マシンにインストールするとき、ライセンス サーバー名とポート番号を指定しなくても、前述のディレクトリにある server.ini ファイルにこの情報を手作業で追加すれば、Standalone Build をインストールすることができます。Standalone Build は、この情報(または専用のノードロック ライセンス ファイル)なしでは実行できません。

License Server Manager (ladmin) の使用方法については、「[FlexNet License Server 上における License Server Manager \(ladmin\) の使用](#)」を参照してください。

同時接続ライセンスの Cloud License Server (CLS) を指定する

Cloud License Server (CLS) は、Revenera FlexNet Cloud Licensing Service でホストされ、InstallShield が使用するライセンス権利を保管します。Cloud License Server (CLS) を使用することで、ローカル ライセンス サーバーをセットアップおよび管理するのに比べて時間と労力が削減されるだけでなく、複数のマシンからライセンスをチェックアウトできる同時接続ライセンスを使用できます。

組織で InstallShield の Cloud License Server (CLS) インスタンスが購入されている場合、InstallShield をマシンにインストールするとき Cloud License Server インスタンス ID の構成が必要です。

- [Cloud License Server \(CLS\) の詳細を取得する](#)
- [Cloud License Server \(CLS\) インスタンス ID を指定する](#)
- [Standalone Build が搭載されているマシンを Cloud License Server \(CLS\) に接続して、Standalone Build ライセンスのチェックイン/チェックアウトを行う](#)

Cloud License Server (CLS) の詳細を取得する

Cloud License Server (CLS) の詳細を取得するには、次の手順に従います。



タスク

Cloud License Server (CLS) の詳細を取得する手順:

1. [Revenera Community](#) にログインして、コミュニティ ホームページで **[InstallShield]** をクリックします。



メモ・Revenera Community のアカウントをお持ちでない場合は、[「Revenera 製品 & ライセンス センターにアクセスする」](#)の手順を参照してください。

2. **[InstallShield]** ページで **[製品およびライセンスのダウンロード]** をクリックしてください。製品 & ライセンス センター開きます。
3. 左側のナビゲーション内で、**[エンタイトルメント]** の下にある **[製品リスト]** をクリックします。**[製品リスト]** ページには、お客様のアカウントで使用できる製品ラインのすべてが表示されます。複数の製品へのアクセスがない場合は、**[製品リスト]** リンクをクリックすると、**[製品情報]** ページが直接開きます。

4. [製品リスト] ページに複数の製品が表示された場合は、[InstallShield] リンクをクリックします。[製品情報] ページが開きます。

The screenshot shows the 'Product and License Center' interface. On the left is a navigation menu with sections: Entitlements (Product List, Entitlement History, View Licenses by Host, View Licenses by Member), Administration (Change Password, Download Preferences, Your Profile, Account Members, Switch Account), and Getting Help (Table of Contents, FAQs, Support). Below the menu are language options: English, 日本語 (Japanese), and Deutsch (German). At the bottom left is an 'Other Support Resources' section with a link to 'Instructions'.

The main content area is titled 'Product Information' for 'InstallShield'. It contains instructions: 'To download a product or related product files, click a link in the **Product and File Downloads** column. To generate a new license file or obtain an existing one, click the **Licenses** link. To see details about products and files that have been downloaded from this site, click the **Download Log** link.'

There are two tabs: 'New Versions' (selected) and 'Release Archive'. Below is a table with columns for Version, Product and File Downloads, Licenses, and Download Log.

Version	Product and File Downloads	Licenses	Download Log
27.0	InstallShield 2021 Premier Concurrent License Server Perpetual License	Licenses	Download Log
27.0	InstallShield 2021 Standalone Build Concurrent License Server Perpetual License	Licenses	Download Log
26.0	InstallShield 2020 Express Japanese Perpetual License	Licenses	Download Log
26.0	InstallShield 2020 Express Perpetual License	Licenses	Download Log
26.0	InstallShield 2020 Premier Concurrent License Server Perpetual License	Licenses	Download Log
26.0	InstallShield 2020 Premier Concurrent Perpetual License	Licenses	Download Log

5. 左側のナビゲーション内で、[デバイス] の下にある [CLS インスタンスの表示] をクリックします。[CLS インスタンスの表示] ページにお客様のアカウントで使用可能なすべての Cloud License Server ID が一覧表示されます。

Product and License Center

View CLS Instance

License Server ID Alias

ID Type Site Name

Activation Code

Filter >

1 to 1 of 1 Entries per page: 25

License Server ID	ID Type	Alias	Site Name
XXXXXXXXXXXX	STRING	Default hosted server	Default hosted server

6. [ライセンス サーバー ID] をクリックすると、アドオン、マップされている組織、有効期限日などの詳細が表示されます。

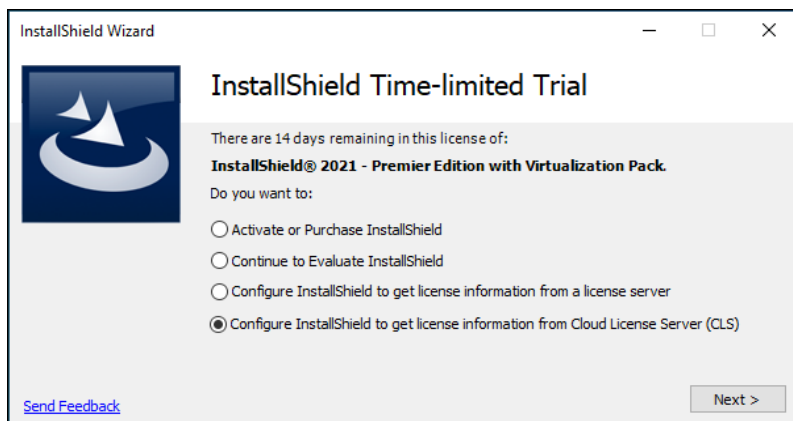
Cloud License Server (CLS) インスタンス ID を指定する

InstallShield の Cloud License Server (CLS) を構成する場合、ライセンス サーバー ID をコピーして、それを InstallShield アクティベーション ウィザードに入力してください。

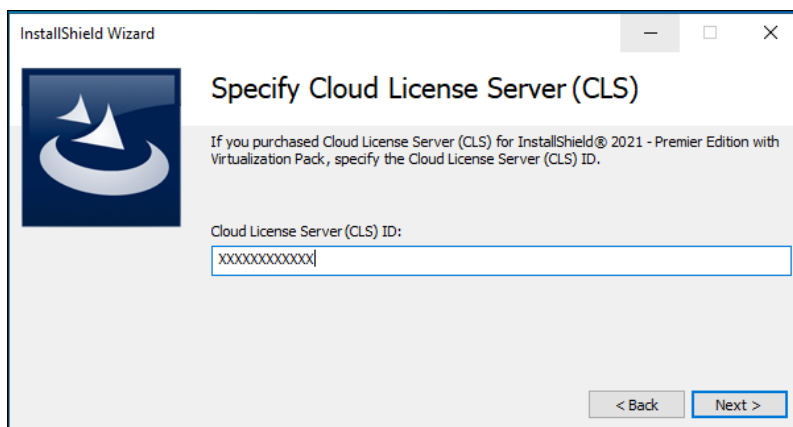


タスク Cloud License Server (CLS) インスタンス ID を指定する手順:

1. InstallShield を起動します。InstallShield が起動する前に、アクティベーション ウィザードが開きます。
2. [InstallShield を構成して、Cloud License Server (CLS) からライセンス情報を取得する] オプションを選択してから、[次へ] ボタンをクリックします。



Cloud License Server (CLS) を指定 ダイアログ ボックスが表示されます。



3. [Cloud License Server (CLS)ID] ボックスに Revenera から受け取った ホスト サーバー ID を入力してください。たとえば、ホスト サーバー ID: XXXXXXXXXXXX。XXXXXXXXXXXX は、Cloud License Server インスタンス ID です。
4. [次へ] ボタンをクリックします。InstallShield が、Cloud License Server (CLS) インスタンスを使った製品アクティベーションの状態を表示する [終了] ダイアログを表示します。

ウィザードが、Cloud License Server (CLS) インスタンスのあるマシンに接続します。

Standalone Build が搭載されているマシンを Cloud License Server (CLS) に接続して、Standalone Build ライセンスのチェックイン/チェックアウトを行う

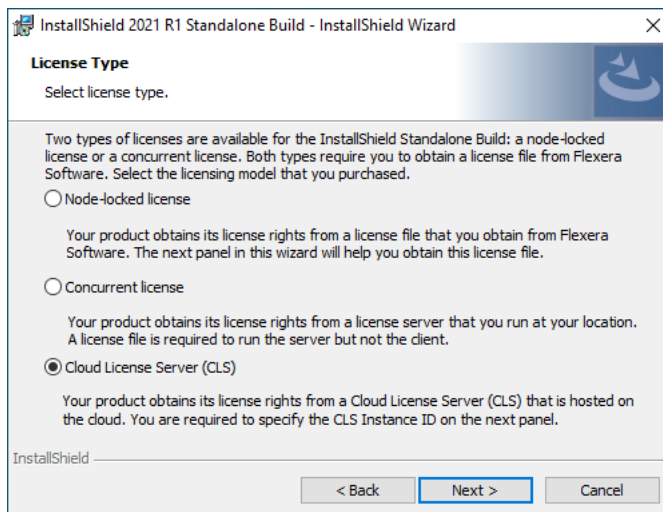
Standalone Build をインストールする時、製品の同時接続ライセンスを管理する Cloud License Server (CLS) を指定するためのプロンプトが表示されます。



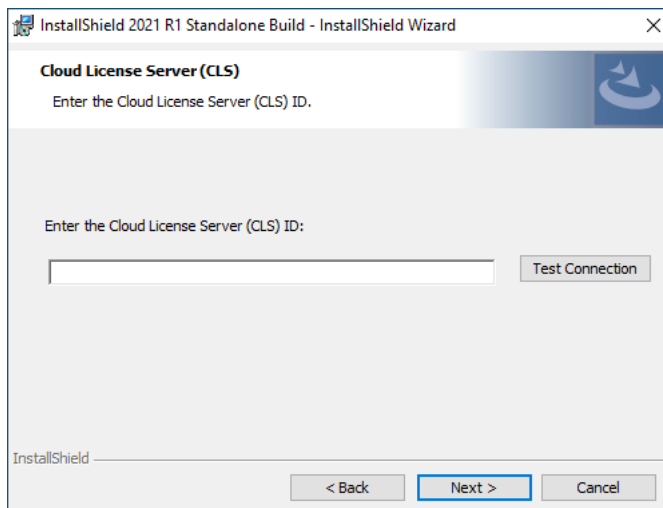
タスク

Standalone Build をインストールして、組織の同時接続ライセンスを管理している Cloud License Server (CLS) を指定するには、以下の手順に従います:

1. Standalone Build インストールを起動します。
2. [ライセンスの種類] ダイアログで、[Cloud License Server (CLS)] オプションを選択してから [次へ] をクリックします。Cloud License Server (CLS) を指定 ダイアログ ボックスが開きます。



3. [Cloud License Server (CLS)] ダイアログで、Revenera から受け取った (または Flexera 製品 & ライセンス センターから取得可能な) Cloud License Server (CLS) ID を入力してください。



設定への入力が入力が完了したら、[テスト接続] ボタン をクリックして、ビルド マシンが Standalone Build のライセンスをチェックアウトおよびチェックインできるかどうかを検証します。

4. インストールの残りのダイアログを完了します。

インストールによって、ビルド マシン上に Standalone Build がインストールされます。インストールは、Server.ini という名前のファイルも作成します。このファイルは、Standalone Build Program Files フォルダの System フォルダにインストールされます：

Standalone Build Program Files フォルダ¥System¥server.ini

Server.ini ファイルには、次の行が含まれています：

```
[FlexNet Publisher Server & FlexNet Embedded XT-Kit]  
CLSServer=CLSHostID
```

上の例では、CLSHostID は Revenera から受け取った、または Flexera/Revenera 製品 & ライセンス センターから取得可能な CLS サーバー ID です。



メモ Standalone Build をビルド マシンにインストールするとき、クラウド ライセンス サーバー ID を指定しなくても、前述のディレクトリにある server.ini ファイルにこの情報を手作業で追加することができます。Standalone Build は、この情報 (または専用のノードロック ライセンス ファイル) なしでは実行できません。

InstallShield のアンインストールと再インストール

使用中の InstallShield のライセンスを使用中のマシンの 1 つから別のマシンに移行する必要がある場合、または使用中のライセンスを組織内の別のユーザーに完全に移譲する必要がある場合、まずそのライセンスをアクティベーション サーバーのアカウントへ返還する必要があります。このプロセスは、非アクティブ化と呼ばれることもあります。これは通常、InstallShield を元のマシンからアンインストールするときにそのマシンがインターネットに接続されている場合、自動的に実行されます。ライセンスを返還すると、そのライセンスが再度使用可能になり、別のマシンで、自分のアクティベーション コードを使ってアクティベートできるようになります。

サブスクリプションの場合、最新のサブスクリプションが元のマシンからアンインストールされる時のみ、ライセンスがサブスクリプション サーバーに返還されます。つまり、元のマシンに同じサブスクリプションを使って InstallShield の 2 つのバージョンがインストールされている場合、最新版のサブスクリプションがアンインストールされる時にライセンスが返還されます。

場合によって、アンインストール中にライセンスを自動的に返還できない場合もあります。たとえば、InstallShield をアンインストールする時にマシンがインターネットに接続されていない場合、ライセンスを返還することはできません。このため、ライセンスを返還して別のマシンでアクティベートできるようにするためには、「[ライセンスをアクティベーション サーバーのアカウントへ返還する](#)」の手順に従って、まずライセンスを返還してから InstallShield をアンインストールすることが推奨されます。



重要・ライセンスを返還して、別のマシンでアクティベートできる回数には制限がありますので注意してください。InstallShield は 1 年間に 4 回アクティベーション サーバーにライセンスを返還することが可能です。1 年間にライセンスを 4 回以上移動させたい場合は、InstallShield セールスまたはサポート担当者にご相談ください。

ライセンスをアクティベーション サーバーのアカウントへ返還する

InstallShield がアクティベートされているマシンがあり、ある時点から、そのマシンでアクティベートしないことになった場合、使用中のライセンスをアクティベーション サーバーにあるアカウントに返還することができます。InstallShield をアンインストールせずにこの処理を行うと、InstallShield のトライアル期間が残っている場合はトライアル モードに戻ります。トライアル期間が過ぎている場合、InstallShield は使用できなくなります。

ライセンスの返還を検討してみる価値がある例の 1 つは、ライセンスを組織内の別のマシンに完全に移譲する可能性がある場合です。まず元のマシン上のライセンスを返還して、それから所有のアクティベーション コードを使って、InstallShield を別のマシンでアクティベートすることができます。



タスク

ライセンスをアクティベーション サーバーのアカウントへ返還するには、以下の手順に従います:

1. InstallShield を起動します。
2. [ヘルプ] メニューで、[バージョン情報] をクリックします。[バージョン情報] ダイアログ ボックスが開きます。
3. [ライセンスの返還] ボタンをクリックします。

InstallShield がライセンスの返還要求をアクティベーション サーバーに送信します。サーバーは、要求を受け取ると、ライセンスが返還されます。

サブスクリプションの場合、そのマシン上にインストールされているすべてのサブスクライブ中バージョンのライセンスがアクティベーション サーバーに変換されます。[バージョン情報] ダイアログ ボックスから [ライセンスの返還] を行なった場合、サブスクリプション ライセンスが変換され、トライアル期間が残っている場合はそのマシン上にインストールされているすべてのサブスクライブ中のバージョンがトライアル モードに戻ります。トライアル期間が過ぎている場合、InstallShield は使用できなくなります。

ライセンスの返還が困難な場合 (たとえば、ライセンスを返還しようとしたときに、マシンがインターネットに接続されていないなど)、アクティベーション ウィザードが表示され、別のマシンからアクセス可能な Web ページを使ってライセンスを返還することができます。その手順は基本的にオフライン アクティベーションと同じです。アクティベーション ウィザードでアクティベーション要求ファイルを作成して、Web ページからその要求ファイルを参照すると、応答ファイルの保存場所を指定するためのプロンプトが Web ページに表示されます。次に、アクティベーション ウィザードで応答ファイルを参照します。詳細については、「[オフライン アクティベーションを実行する](#)」を参照してください。



重要・ライセンスを返還して、別のマシンでアクティベートできる回数には制限がありますので注意してください。InstallShield は 1 年間に 4 回アクティベーション サーバーにライセンスを返還することが可能です。1 年間にライセンスを 4 回以上移動させたい場合は、InstallShield セールスまたはサポート担当者にご相談ください。

Standalone Build ライセンスに関する問題のトラブルシューティング

次の表には、Standalone Build を使ってリリースをビルドするときに発生する可能性のある、ライセンス関連のいくつかの問題の解決方法についてのヒントが掲載されています。

テーブル 4・ライセンス関連のエラーと警告

ビルド エラー/警告番号	エラー/警告メッセージ	トラブルシューティング情報
-7216	この製品のライセンスでは、iscmdbl.exe の %d インスタンスのみを同時に実行できます。%d インスタンスが検出されました。	このエラーは、Standalone Build のノードロック ライセンスを使用していて、Standalone Build の同時に使用可能なインスタンスの数を超えた場合に発生します。 このエラーを解決するためには、Standalone Build を指定された同時使用インスタンスの数を超えて起動しないでください。

テーブル 4・ライセンス関連のエラーと警告 (cont.)

ビルド エラー/警告番号	エラー/警告メッセージ	トラブルシューティング情報
-7159	製品ライセンスの期限が切れているか、まだ初期化されていません。	<p>このビルド エラーは、Standalone Build を使ってリリースをビルドしようとしたときに、以下のいずれも当てはまらなかった場合に発生します:</p> <ul style="list-style-type: none">次のディレクトリに License.lic ノードロック ファイルが存在しない: <i>Standalone Build Program Files</i> フォルダ→Systemビルド マシンが、FlexNet License Server に接続されていない。FlexNet License Server は同時接続ライセンスを管理します。同時接続ライセンスを使用している場合、Server.ini で FlexNet License Server が指定されていないとはなりません。このファイルは、以下のディレクトリにインストールします: <i>Standalone Build Program Files</i> フォルダ→System <p>Server.ini ファイルには、次の行が含まれています:</p> <pre>FlexNet Publisher Server] Server=Port@ServerName</pre> <p>上の例で、Port はカスタム ポート番号が使用される場合のポート番号です。多くの場合、ポート番号は省略されます。ServerName は、FlexNet License Server ソフトウェアが搭載されたマシンの名前です。</p> <p>このビルド エラーは、Standalone Build の同時接続ライセンスを使ってリリースをビルドしようとしたときに、FlexNet License Server がダウン、または応答なしの状態の場合に発生します。</p> <p>エラーについての追加情報を取得したい場合、-v オプションを ISCmdBld.exe に渡して冗長ビルド ログを生成します。以下は、冗長ビルド ログに含まれる追加情報の例です:</p> <p>ライセンス サーバー マシンがダウン、または応答なしの状態です。(-96,7:11001 "WinSock: Host not found (HOST_NOT_FOUND)")</p> <p>Standalone Build はライセンス ファイルなし (または、Standalone Build の同時接続ライセンスの場合、FlexNet License Server への接続なし) では実行できません。このエラーを解決するためには、ライセンスが正しく構成されていることを確認してください。ノードロック ライセンスを使用する場合、ライセンス ファイルをビルド マシンの正しい場所にインストールする必要があります。同時接続ライセンスを使用する場合、ライセンス ファイルは FlexNet License Server にインストールしなくてはなりません。</p>

テーブル 4・ライセンス関連のエラーと警告 (cont.)

ビルド エラー/警告番号	エラー/警告メッセージ	トラブルシューティング情報
-7158	仮想化機能は、このエディションに含まれていません。	<p>このビルド エラーは、App-V パッケージをビルドしようとしたときに、ライセンスが App-V パッケージのビルドを許可するように構成されていない場合に発生します。</p> <p>エラーについての追加情報を取得したい場合、-v オプションを ISCmdBld.exe に渡して冗長ビルド ログを生成します。以下は、冗長ビルド ログに含まれる追加情報の例です:</p> <p>そのような機能は存在しません。(5,357)</p> <p>このエラーを解決するには、仮想化パックを含む InstallShield または Standalone Build バージョンをご購入ください。</p>

FlexNet License Server 上における License Server Manager (Imadmin) の使用

FlexNet License Server ソフトウェアには、ライセンス サーバー マネージャー (Imadmin) が含まれています。ライセンス サーバー マネージャーでは、Web ベースのユーザー インターフェイスを使って、以下のタスクを行うことができます:

- すべてのサーバー構成、およびほとんどの管理機能を実行する。
- ユーザーの追加と削除、およびユーザーの権限を構成する。

Imadmin の使用方法についての詳細は、このサイトの右上にある [ヘルプ] ボタンをクリックして表示されるドキュメントを参照してください。

Imadmin の起動

FlexNet License Server が搭載されているマシンを使用しているか、組織内の別のマシンを使用しているかに関わらず、Imadmin を起動してサインインすることができます。



タスク

Imadmin を起動するには、以下の手順に従います:

- Web ブラウザーを開いて、以下のいずれかを行います:
 - FlexNet License Server が搭載されているマシンを使用している場合、以下のサイトにアクセスします:
`http://localhost:Port`

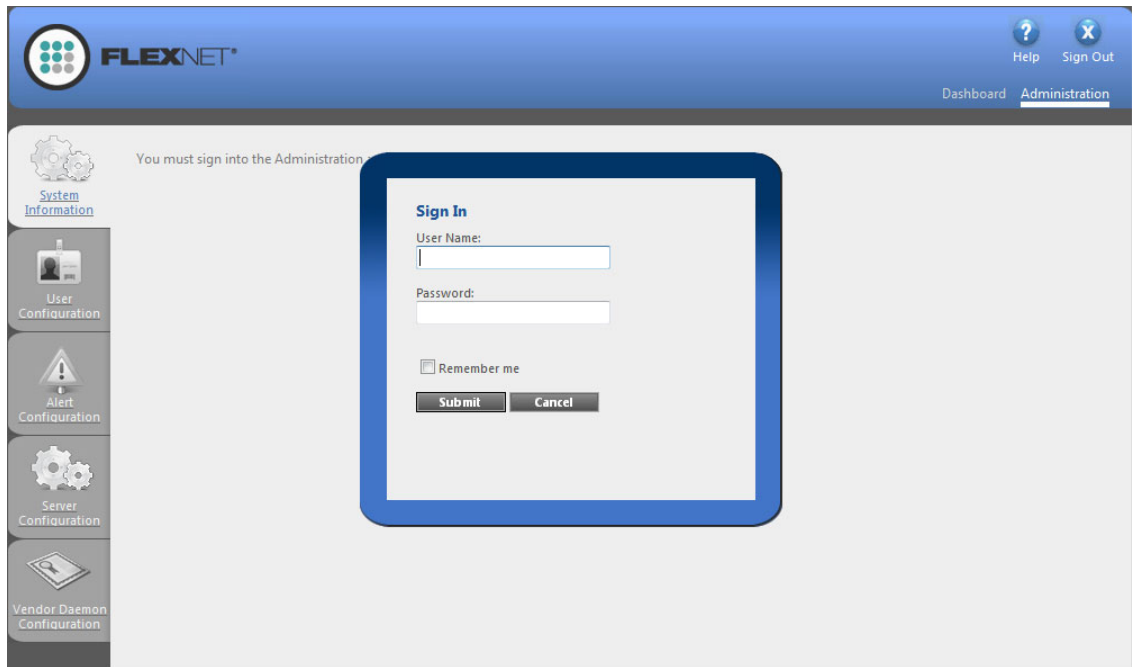
`Port` は、Web サーバーをホストするために使用される HTTP ポート番号です。これは、FlexNet License Server ソフトウェアのインストール時に構成されます。デフォルトのポート番号は、8090 です。

- FlexNet License Server が搭載されているのとは異なるマシンを使用する場合は、以下のサイトにアクセスします:

`http:// MachineName.Port`

MachineName は、FlexNet License Server ソフトウェアが搭載されたマシンの名前です。*Port* は、Web サーバーをホストするために使用される HTTP ポート番号です。これは、FlexNet License Server ソフトウェアのインストール時に構成されます。デフォルトのポート番号は、8090 です。

- サイトの右上にある [Administration] リンクをクリックします。サイトで [Sign In] ページが表示されます。



- サインインします。デフォルトのサインイン情報は、以下の通りです。これらの認証情報を使って初めてサインインしたとき、lmadmin はパスワードの変更をプロンプトします。

- ユーザー名: admin
- パスワード: admin



ヒント FlexNet License Server がサービスとして構成されている場合、Windows サービスを使って FlexNet License Server サービスを開始することが出来ます。FlexNet License Server がサービスとして構成されていない場合、lmadmin.exe を実行して開始できます。ユーザーがライセンスをチェックアウトおよびチェックインできるようにするためには、FlexNet License Server を開始しなくてはなりません。

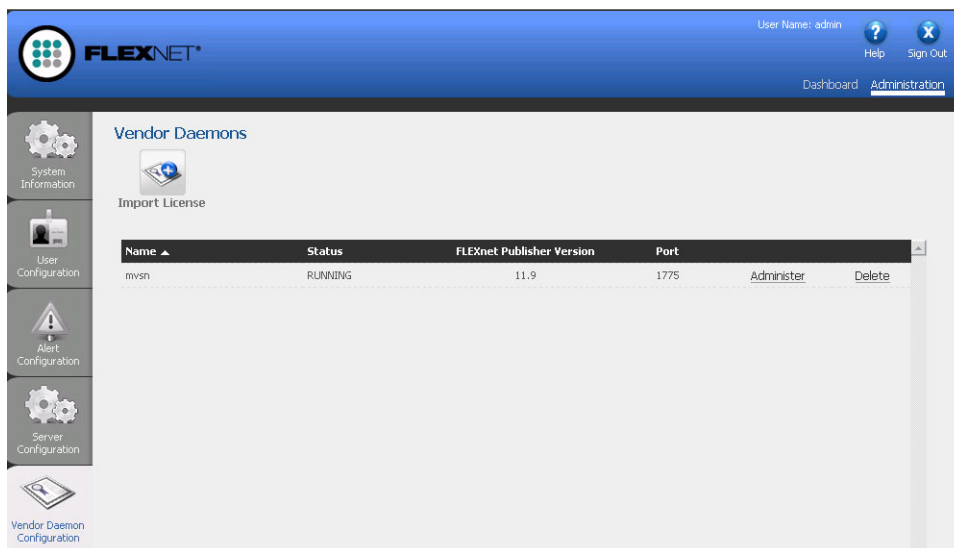
ライセンス ファイルを Imadmin にインポートする

Imadmin の [Vendor Daemon Configuration] ページでは、ベンダー デーモンのライセンス ファイルをインポートすることができます。Reverera 以外の企業によって配布されている FlexEnabled 製品を使用するとき、その製品がライセンス ファイルを使用する場合は、この処理を行う必要があります。

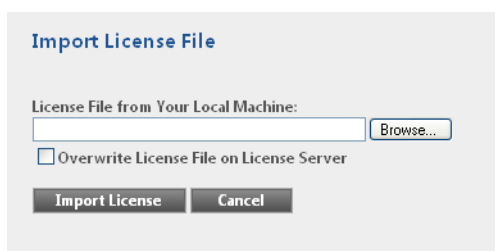


タスク 既存のベンダー デーモンのライセンス ファイルをインポートするには、以下の手順に従います:

1. [Administration] リンクをクリックしてから、[Vendor Daemon Configuration] タブをクリックします。



2. [Import License] ボタンをクリックします。[Import License File] ページが開きます。



3. 使用するライセンス ファイル (.lic) へのパスを指定するか、[Browse] ボタンをクリックして、そのファイルを参照します。
4. オプションで、[Overwrite License File on License Server (ライセンス サーバー上のライセンス ファイルを上書きする)] チェック ボックスを選択します。ライセンス サーバーのアップロード ディレクトリに同じ名前のライセンス ファイルが既存する場合、ライセンス サーバーは、そのファイルを上書きします。このオプションは、ライセンス サーバー マネージャーに新しいベンダー デーモンを追加するときに必要です。
5. [Import License] ボタンをクリックします。これが既存ベンダーのライセンス ファイルである場合、ライセンス サーバー マネージャーはそのファイルをライセンス サーバーの適切なディレクトリにコピーします。
6. 既存ベンダーのライセンス ファイルをインポートするときに、[Overwrite License File on License Server] チェック ボックスをクリアした場合、ベンダー デーモンを停止および開始する必要があります。新しいライ

センス ファイルが読み込まれて、ベンダー デーモンが開始したときに、ライセンス ファイルに含まれるライセンスがロードされます。

既存ベンダーのライセンス ファイルをインポートして、[Overwrite License File on License Server] チェック ボックスを選択した場合、ベンダー デーモンによって自動的に更新されたライセンス ファイルが読み込まれます。この再読み込み処理が完了次第、ユーザーは任意の新しいライセンスを使用し始めることができます。新しいライセンスは、[Dashboard] にも表示されます。

新しいベンダー用のライセンス ファイルをインポートすると、ライセンス サーバー マネージャーが、ライセンス サーバー構成にベンダー デーモン情報を追加して、ライセンス サーバーがこれを管理できるようにします。ライセンス サーバー マネージャーが、ライセンス サーバーの適切なディレクトリにファイルをコピーします。

ベンダー デーモンの管理

Imadmin の [Vendor Daemon Configuration] ページでは、ベンダー デーモンを停止、開始、およびベンダー デーモンのライセンス ファイルを再読み込みすることができます。



タスク **ベンダー デーモンを管理するには、以下の手順に従います:**

1. [Administration] リンクをクリックしてから、[Vendor Daemon Configuration] タブをクリックします。

Name ▲	Status	FLEXnet Publisher Version	Port		
mvsn	RUNNING	11.9	1775	Administer	Delete

- ベンダー デーモンの概要グリッドで、[Administer] ハイパーリンクをクリックすると、いくつかの設定が表示されます。

Vendor Daemon:mvsn

Vendor Daemon Port in Use: 1775

Vendor Daemon Actions

Stop Reread License Files

Report Log Name: Rotate Report Logs

General Configuration

*License File or Directory
C:\Documents and Settings\Debbielanders\My Documents\LicenseFiles\0004232c4c1f.lic

Vendor Daemon Location:
mvsn/mvsn

*Vendor Daemon Port:
 Use default port
 Use this port

*Restart Retries:

Enable Date-based Versions

Vendor Daemon Log

Save Cancel

- 以下の設定を使って、必要なタスクを行います。
 - Vendor Daemon Port in Use** - この読み取り専用設定は、ベンダー デーモンが FlexEnabled アプリケーションと通信するために使用する TCP/IP ポート番号を表示します。
 - Stop** - このボタンは、ベンダー デーモンを停止しますが、Imadmin は実行中のままにします。ベンダー デーモンを停止すると、このボタンは [Start] に変更されます。
 - Start** - このボタンは、ベンダー デーモンを開始します。このボタンは、ベンダー デーモンが停止しているときに表示されます。ベンダー デーモンを開始すると、ベンダー デーモンがライセンス ファイルを読み込んで、ライセンス権利をメモリーにロードします。ベンダー デーモンを開始すると、このボタンは [Stop] に変更されます。
 - Reread License Files** - このボタンは、ライセンス ファイル、トラステッド ストレージ、および任意のベンダー デーモン オプション ファイルのコンテンツを再読み込みしてから、情報をメモリーにロードします。ベンダー デーモンの再開が必要ときに、License File または Directory 設定の値が変更されていない限り、[General Configuration] セクションの License File または Directory 設定で指定されたライセンス ファイルが読み込まれます。一般的に、ライセンス ファイルのコンテンツまたはオプション ファイルが編集された場合に、このボタンを使用します。
 - Report Log Name** - 現在のレポート ログを保存するファイルの名前を入力します。
 - Rotate Report Logs** - このボタンをクリックすると、FlexNet License Server は既存のレポート ログの名前を Report Log Name 設定の名前に変更して、オプション ファイルに含まれる名前を使って、新しい空白

のレポート ログ ファイルを作成します。この機能を使用するには、オプション ファイルを使って、レポート ログ機能を有効化しなくてはなりません。

FlexNet License Server のシステム情報を参照する

License Server Manager (Imadmin) は、FlexNet License Server についての情報および FlexNet License Server ソフトウェアを実行中のシステムについての情報を表示します。



タスク *Imadmin* でシステム情報を表示するには、以下の手順に従います:

[Administration] リンクをクリックしてから、[System Information] タブをクリックします。

The screenshot shows the FlexNet License Server Administration web interface. The top navigation bar includes the FlexNet logo, the user name 'admin', and links for 'Help' and 'Sign Out'. Below the navigation bar, there are tabs for 'Dashboard' and 'Administration'. The main content area is titled 'System Information' and displays the following details:

- Release Version: 10.00
- License Server Manager Port in Use: 1000
- Display: C:\WINDOWS\system32\cmd.exe
- Host Name: PROD01
- Host Domain Name: PROD01.flexerasoftware.com
- IPv4 Address: 10.10.10.10
- IPv6 Address: FE80::1010:1010:1010:1010
- Ethernet Address: 00:0C:29:00:00:00
- Volume Serial Number: 10000000
- Local Stop Server Allowed: No
- Remote Stop Server Allowed: No
- License Reclaim Allowed: No

On the left side of the interface, there is a vertical menu with icons and labels for 'System Information', 'User Configuration', 'Alert Configuration', 'Server Configuration', and 'Vendor Daemon Configuration'.

[System Information] タブには、以下の情報が表示されます:

- **Release Version** – FlexNet License Server のリリース バージョン。
- **License Server Manager Port in Use** – Imadmin が接続を待ち受け (listen) するのに使用するポート番号。ポート番号を構成するには、[Server Configuration] タブを使用します。
- **Display** – Windows ベースのシステムで、これはシステム名またはターミナル サーバー環境ではターミナル サーバー クライアントの名前です。UNIX ベースのシステムで、これは X ディスプレイの名前、または `ttyname()` 関数 (または同様の関数) によって返された値です。
- **Host Name** – FlexNet License Server を実行中のシステムのホスト名 (例、`prod01`)。
- **Host Domain Name** – ライセンス サーバーを実行中のドメイン上にあるシステムの完全修飾ホスト名 (例、`prod01.flexerasoftware.com`)。

- ・ **IPv4 Address** — システムを識別するのに使用される IP バージョン 4 アドレス (例、**255.255.255.255**)。IPv4 アドレスは、システムで IPv4 が有効な場合に表示されます。
- ・ **IPv6 Address** — システムを識別するのに使用される IP バージョン 6 アドレス (例、**ffff:ffff:ffff:ffff:ffff:ffff:ffff:ffff**)。IPv6 アドレスは、システムで IPv6 が有効な場合に表示されます。
- ・ **Ethernet Address** — FlexNet License Server ソフトウェアを実行中のシステムを識別する、マシンの ホスト ID (マシンの MAC アドレスで、物理アドレスとも呼ばれます)。
- ・ **Volume Serial Number** — ライセンス サーバーを実行中のシステムを識別するハード ディスク シリアル番号。